

平成23年度第7回常務理事会議事録

日 時：平成24年2月10日（金）15：00～17：35

会 場：事務局 会議室

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岡井 崇、落合 和徳

常務理事：岩下 光利、嘉村 敏治、木村 正、峯岸 敬、八重樫 伸生、吉川 裕之

監 事：岡村 州博、武谷 雄二、和氣 徳夫

第64回学術集会長：平松 祐司

第65回学術集会長：櫻木 範明

理事会内委員会委員長：海野 信也、竹下 俊行、吉村 泰典

幹事長：矢野 哲

副幹事長：澤 倫太郎

幹 事：上田 豊、梶山 広明、金内 優典、北澤 正文、小林 陽一、榊原 秀也、佐藤 豊実、
下平 和久、高倉 聡、多賀谷 光、津田 尚武、永瀬 智、阪埜 浩司、藤原 浩、
増山 寿、山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

15：00 理事長、副理事長、常務理事の総数11名のうち、9名が出席（吉川史隆理事、上妻志郎理事は欠席）し、定足数に達しているため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、監事の計4名を選任し、これを承認した。

I. 平成23年度第6回常務理事会議事録（案）の確認

原案通り、承認した。

II. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

1) 総 務（岩下光利理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

①野口圭一功労会員（愛知）が平成23年12月29日にご逝去された。

（愛知学会より平成24年1月25日連絡受領）

②松澤邦昌功労会員（東京）が平成24年1月22日にご逝去された。（弔電手配済）

(2) 委員会規定の改定について [資料：総務1]

①代議員選挙規則

②その他の規則・内規

なお委員会規定のうち「専門委員会に関する事項」については現在検討中であり、別途お諮りすることとしたい。

本件について特に異議なく、全会一致で承認された。

(3)平成 24 年度臨時総会次第(案) について [資料：総務 2]
本件について特に異議なく、全会一致で承認された。

(4) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン頒布状況について

2月1日現在、入金済5,502冊、校費支払のため後払希望 17冊。

(ロ) 婦人科腫瘍委員会 特になし

(ハ) 周産期委員会

①ガイドラインの位置づけに関する検討のお願いについて [資料：総務 3]

海野信也委員長 『ガイドライン』について、他学会と本会では位置づけが異なるケースがあり、更に他学会と共同してガイドラインを作成する場合など混乱しやすいので、考え方を整理しておく必要がある。」

岡井崇副理事長 「ガイドラインの区別は必要であり、提案されている区分でよい。ただ社会から見た時にわかりやすいネーミングにしてほしい。」

小西郁生理事長 「ある程度事前に分類をしておいた上で、ガイドラインが出た時に議論を行い、個別に対応していくことを考えたい。」

②胎児 CT の適応と推奨プロトコールに関する検討 WG の設置について [資料：総務 4]

海野信也委員長 「専門的な立場で慎重に検討する必要のある問題である。」

小西郁生理事長 「本会からメンバー、人数などを提案して進めていただきたい。」

③本会ホームページ「病気を知ろう」及び「妊娠を知ろう」のコーナーの充実について
[資料：総務 4-1]

海野信也委員長 「母子手帳のなかで情報提供サイトを紹介する方向にあるため、これを拡充していただきたい。」

嘉村敏治理事 「広報委員会としては問題ないと考えている。」

平松祐司第 64 回学術集会長 「各学会とのリンクを張ることも進められないか。」

嘉村敏治理事 「各学会のページを確認して、対応できるか検討したい。」

(ニ) 女性ヘルスケア委員会 特になし

〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1) 厚生労働省

①2013 年度から開始予定の「次期国民健康づくり運動」に関して、次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会（厚生労働省健康局が設置）に対し 10 年後に目指す姿や目標について、本会の意見を提出した。 [資料：総務 5]

②厚生労働省健康局が設置した歯科口腔保健の推進に関する専門委員会から、歯科口腔保健の推進に関する法律の基本的事項に関して特段の意見があれば 2 月 20 日までに提出するように依頼があった。 [資料：総務 6]

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医師会

疑義解釈委員会委員の推薦準備依頼について [資料：総務 7]

小西郁生理事長「落合和徳先生にもう1期お願いしたい。」

本件について特に異議なく、全会一致で承認され、落合和徳先生は応諾された。

(2) 日本医学会

厚生労働省医政局より、日本医学会を通して「ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針」の周知徹底依頼があった。ホームページに掲載して、本会会員への周知を図りたい。

[資料：総務8]

(3) 日本外科学会

日本外科学会から「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」(案)が送られてきた。3月5日を期限として、このガイドライン案へのパブリックコメントを求めている。

[資料：総務8-1]

[IV. その他]

(1) NPO 法人東京がん化学療法研究会より、同会が主催する第13回臨床腫瘍夏期セミナー(開催日：2012年7月12・13日、場所：東商ホール)の後援名義使用依頼があった。経済的負担はなく、これを応諾したい。

(2) キッセイ薬品工業(株)から、「カバサール錠0.25mg、1mg」の販売移管についての通知を受領した。[資料：総務9]

2) 会 計 (岡井 崇副理事長)

(1) 平成24年度予算編成について [資料：会計1]

桜田佳久事務局長「公益目的事業会計は2,475万円の赤字、法人会計は2,454万円の黒字、全体では21万円の赤字の予算となった。資金調達、設備投資はなし、また収支相償に関して専門医制度についてのコメントが必要だが問題なし、公益目的事業比率は50%を超えており、遊休財産保有上限額も範囲内で問題ない。」

岡井崇副理事長「予算策定に当たっては、各部署・委員会の予算消化率が85%であることに鑑み、旅費は10%カットすることにした。ただし必要がある場合は、柔軟に追加査定する方針である。」

平松祐司第64回学術集会長「専攻医教育プログラムの費用は計上されていないがそれでよいか。」

桜田佳久事務局長「専門医制度事業会計のなかに一部織り込んでいる。」

吉村泰典委員長「専門医制度事業は黒字だが、これを解消するプログラムはどう示すのか。」

桜田佳久事務局長「特定費用準備金を組んで何年かで解消していくことになる。」

本件について特に異議なく、全会一致で承認された。

3) 学 術 (峯岸 敬理事)

(1) 学術委員会

(イ) 会議開催

- ①平成23年度優秀論文賞第二次予備選考委員会を2月23日に開催する。
- ②学術活性化委員会を2月23日に開催する。
- ③学術担当理事会を2月24日に開催する。
- ④第4回学術委員会を2月24日に開催する。

(2) プログラム委員会関連

(イ) 第 64 回学術講演会プログラム委員会

①第 64 回学術講演会で始まる専攻医教育プログラムの資料(スライド)の作成担当、配布の可否と配布方法などについて、対応方針を決定する必要がある。

平松祐司第 64 回学術集会長「専攻医教育プログラムは今回が初回なので参加人数が分からず、ハンドアウトの作成枚数も予定できない。よって学会ホームページに載せ、それを見て来てもらう、という方式で進めたい。」

本件について特に異議なく、全会一致で承認された。

(ロ) 第 65 回学術講演会プログラム委員会

①シンポジウム演者選考委員会、特別講演演者選考委員会を 2 月 23 日に開催する。

(ハ) 第 66 回学術講演会プログラム委員会

①プログラム委員会(シンポジウム課題選考)を 2 月 23 日に開催する。

4) 編集(上妻志郎理事欠席につき山下隆博主務幹事)

(1) 会議開催

2 月 10 日に和文誌編集会議ならびに JOGR 編集会議を開催した。

(2) 英文機関誌(JOGR)投稿状況:2012 年投稿分(1 月末現在)

投稿数 92 編(うち Accept 0 編、Reject 8 編、Withdrawn/Unsubmitted 29 編、Under Revision 1 編、Under Review 5IV編、Pending 0 編、Expired 0 編)

(3) 定款施行細則および編集関係規約の改定について [資料:編集 1]

①編集内規・投稿規定等の現状にそぐわない部分について改定案を作成した。

②転載使用料に関してはあらたに規定を設けるべく案を作成した。

岡井崇副理事長「JOGR の位置づけの整理についてはよく検討してほしい。」

嘉村敏治理事「JOGR は機関誌というより学術論文誌と整理できるかもしれない。」

(4) 和文機関誌オンライン化について

国立情報学研究所の CiNii に収録された日本産科婦人科学会雑誌第 1 巻 1 号からの PDF データを使用し、また、今後掲載していくものについても PDF 化し学会ホームページに収載する予定で作業を進めている。今後、学会ホームページのレイアウトに関しては広報委員会のご協力を得ながらより見やすい形で会員に提供できるよう検討を進める予定である。

山下隆博主務幹事「紙媒体は現状維持し、学会ホームページの学会刊行物に日本産科婦人科学会雑誌の項目を作成して、和文誌がそのままホームページに載っている形にしたい。これに係る追加経費として、PDF 作成に年間 230 万円、目次データの作成と PDF のリンクに 10~100 万円の範囲、サーバーに年間 50 万円、合計で年間 290~380 万円、初期経費に数百万円かかる。」

小西郁生理事長「紙媒体が減るので費用が下がるということはないか。」

山下隆博主務幹事「将来的には紙媒体は不要という会員も出てくるかもしれないが、今は紙媒体の扱いを従来と変えないようにしたい。」

小西郁生理事長「方向は問題ないので、次の理事会で詳しく説明してほしい。」

5) 渉外(木村 正理事)

(1) 会議開催

3月16日に第3回渉外理事・幹事会議を開催の予定である。

[FIGO 関係]

(1) FIGO World Congress 2012 (10月7～12日、於：ローマ)の早期登録締切が当初の1月末日より4月15日に延長された。

(2) FIGO World Congress 2012の本会からのスピーカーについて [資料：渉外1]

木村正理事「FIGOからの依頼を受けて10名の先生を演者として推薦したが、FIGOからはセッションを作って自ら進めてほしいとのことである。そうならば本件を取りやめにしてはどうか。」

落合和徳副理事長「ジャパンセッションは行わない、と回答することにしたい。」

本件について特に異議なく、全会一致で承認された。

(3) 1月26～28日、FIGO Working Group in Pelvic Floor Medicine and Reconstructive Surgeryがローマにて開催され、本会より大阪市立大 古山将康准教授が出席した。

(4) 2012年2月のFIGO Officers Meeting 報告 [資料：渉外2]

[AFOG 関係]

(1) 1月12～15日マニラにて開催のAFOG Action Plan Meetingに、本会より落合和徳副理事長 (Chairman, Oncology Committee)、上妻志郎理事 (Editor-in-Chief, JOGR)、大阪市立大学 古山将康准教授 (Chairman, Urogynecology Committee) が出席した。

(2) 次回AFOG Council Meetingが6月23日フィジーにて開催される予定である。

[ACOG 関係]

(1) 4月14日、第64回日産婦学術講演会 Exchange Programに来日のACOG役員と本会役員との会合を行う予定である。

[その他]

(1) Thailand Convention & Exhibition Bureau主催の会合“Believe in Thailand: Destination of CHOICES”への小西郁生理事長宛招待状を受領した。

6) 社 保 (吉川裕之理事)

(1) 会議開催

①2月10日の第7回常務理事会終了後、第2回社会保険診療報酬改定提案ワーキンググループおよび第4回社会保険委員会を開催の予定である。

- ②3月16日に第2回婦人科内視鏡悪性腫瘍手術に関する関連団体協議会を開催の予定である。
- ③3月16日第8回常務理事会終了後、第3回社会保険診療報酬改定提案ワーキンググループおよび第5回社会保険委員会を開催の予定である。

(2) 治験推進研究事業における治験候補薬及び治験候補機器についての岩手医科大学からの推薦依頼について

吉川裕之理事「本日、中医協からの答申書が出た。認められた項目がかなりある。内保連関係は難しいが、全体としては根拠がしっかりしていれば認められる方向にある。」

吉村泰典委員長「きちんと戦略を考えて臨む必要がある。」

7) 専門医制度 (吉川史隆理事欠席につき梶山広明主務幹事)

(1) 会議開催

第4回中央委員会を1月28日に開催した。

(2) 日本専門医制評価・認定機構

①1月11日に各都道府県年齢別男女別専門医数と専門医資格取得までの研修年次の調査依頼があり回答した。

②2月28日に開催される「平成23年度第2回社員総会」に吉川史隆委員長が出席する予定である。

③「貴学会における2階部分のヒアリングの実施について」は3月9日に決定した旨の連絡を受けた。1時間程度のヒアリングで、委員長が出席する予定である。

岩下光利理事「重要なヒアリングなのでしっかり対応していただきたい。」

櫻木範明第65回学術集会長「基礎学会とサブスペシャリティ学会の間で互いの位置について確認書面を交わしていることが重要であり、ヒアリングの前に対応しておいた方がよい。」

吉村泰典委員長「各サブスペシャリティ学会でも理事会で承認を受ける必要があります、本会から各学会に対して提案してはどうか。」

小西郁生理事長「早急に対応したい。」

(3) 専門医制度規約施行細則の一部改訂について

専門医制度規約施行細則に記載されている各種様式について、様式に変更があった場合にその都度総会に諮ることは煩雑になるので様式番号の記載は削除する。 [資料：専門医1]

本件について特に異議なく、全会一致で承認された。

8) 倫理委員会 (落合和徳委員長)

(1) 本会の見解に基づく諸登録 (平成23年1月31日)

①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：44 研究

②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：578 施設

③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：578 施設

④顕微授精に関する登録：511 施設

⑤非配偶者間人工授精に関する登録：16 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

1月30日現在申請260例 [承認226例、非承認4例、審査対象外18例、取り下げ1例、照会5例、審査中6例] (承認226例のうち7例は条件付)

(3) 会議開催

- ①「平成23年度第3回着床前診断に関する審査小委員会」を1月24日に開催した。
(併せて、慶應義塾大学医学部倫理委員会との「意見交換会」を行った。)
- ②「平成23年度第3回倫理委員会」を2月6日に開催した。

(4)「第4回遺伝カウンセリング講習会」の開催について [資料：倫理1]
日 時： 7月16日(祝・月)10時～16時
場 所： 東京コンファレンスセンター・品川
<受講料：1万円>

(5) 出生前診断のワーキンググループ立ち上げについて [資料：倫理2]

落合和徳副理事長「このワーキンググループはPGSの検討を行うが、すでに一部会員がスクリーニングを行っているようなので、倫理委員会で事実確認を行いたいと考えている。」

本件について特に異議なく、全会一致で承認された。

9) 教 育 (八重樫伸生理事)

(1)会議開催

- ①学会発刊書籍の電子化に関する打合会を1月27日に開催した。
- ②西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部産科医師育成奨学基金選考委員会を1月27日に開催した。
- ③平成24年度第1回専門医認定筆記試験問題作成委員会を1月27日に開催した。
- ④第4回若手医師企画打合会を2月10日ならびに2月24日に開催する予定である。

(2)「産婦人科研修の必修知識2011」頒布状況について

2月1日現在、入金済5,440冊、校費支払のため後払希望75冊。

(3)西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部産科医師育成奨学基金制度推薦状況

1月24日付けで追加推薦1名があり、平成24年度の推薦応募は26名となった。1月27日開催の選考委員会で別紙の24名を選考した。 [資料：教育1]

(4)用語集・用語解説集について

- ①東邦大学 久具宏司教授より用語に関するご意見を受領した(1月24日)ので、周産期委員会 海野信也委員長に検討方依頼した。 [資料：教育2]
- ②用語集・用語解説集改定については、今まで頂いたご意見を2月の理事会に諮る予定である。

岩下光利理事「先日、WHO-FIC 協力センター発足レセプションに出席したが、ICD-11は2015年運用開始予定だったが、2016年に延期になったとのことである。」

10) 地方連絡委員会 (落合和徳副理事長) 特になし

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (嘉村敏治委員長)

(1) 会議開催

3月15日、第3回広報委員会を開催の予定である。

(2) JOB-NET 公募情報について [資料：広報1]

(3) ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について [資料：広報2]

(4) ホームページアクセス状況について [資料：広報3]

(5) 婦人科腫瘍委員会より蜂須賀徹先生、女性ヘルスケア委員会より高松潔先生を広報委員に追加委嘱したい。

本件について特に異議なく、全会一致で承認された。

2) 未来ビジョン委員会 (吉村泰典委員長)

(1) 役員および代議員選任規程の改定について [資料：未来ビジョン1]

吉村泰典委員長「昨年の総会で理事2名の増員が報告されているが、これを具体的に進めるための規程の改定を行いたい。理事定数を25名とすることや会員総数を理事総数で除した比例人員でブロック毎の理事数を決定するなどの変更を行っている。これに基づいて平成22年度の会費納入ベースで計算するとケース2の関東と中国に理事を各1名増となる。」

佐川典正議長「現在の理事23名は平成22年度ベースで選ばれているので増員の2名もそのベースで計算を行い、ケース2を適用すべきである。」

岡井崇副理事長「2名増員についてはそれでよいが、それ以降についてもきちんと整理すべきである。」

吉村泰典委員長「将来については、理事長推薦や特任理事、女性理事の選出なども考えていきたい。」

木村正理事「結論としては賛成であるが、今回改定する規程は来年以降の理事選出には適用できるが、今年増員される2名の理事の選出に適用するには少し無理があるのではないか。」

佐川典正議長「確かに2名の理事は平成22年度ベースである以上、規程改定案第3条の『前年の10月31日現在・・・』通りには選出されない。」

岡井崇副理事長「2名増員分については現規程を適用するということで整理すればよい。」

吉川裕之理事「規程に書かれている『近似値』の定義があいまいであるように思う。」

吉村泰典委員長「ある程度は理事会での裁量余地を残すことがよいのではないか。」

小西郁生理事長「規程の中の表現で『加え得る』と『できる』というのはどう違うのか。」

吉村泰典委員長「『加える』でよいと思う。誤解を受けないために『理事会は比例人員を変更することができる』と変えた方がよい。」

岡井崇副理事長「『近似値』の定義は明確にした方がよいと思う。選出の時にもめることの無いように、もう少し検討してもらいたい。」

吉村泰典委員長「理事会で再度お諮りすることとしたい。」

3) 震災対策・復興委員会 (岡井 崇委員長)

(1) 1月19日の第2回震災対策・復興委員会議事録を作成した。 [資料：震災対策1]

岡井崇委員長「福島県立医大の藤森教授から、他大学から専攻医を受入れる準備があるとのコメントを受けた。震災対策を超えた問題でもあり、広い見地で議論してほしい。」

海野信也委員長「具体的な内容を示していただいた上で、JOB-NETなどを利用してはどうか。」

4) 診療ガイドライン委員会 (吉川裕之学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

① 「産婦人科診療ガイドライン—産科編2008」頒布状況について
1月31日現在、入金済11,966冊、後払希望0冊。

② 「産婦人科診療ガイドライン—産科編2011」頒布状況について

2月1日現在、入金済11,270冊、後払希望121冊。

(2)産科編評価委員会（海野信也委員長） 特になし

(3)婦人科外来編委員会（八重樫伸生委員長）

①「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編2011」頒布状況について
2月1日現在、入金済9,884冊、後払希望98冊。

(4)婦人科外来編評価委員会（峯岸 敬委員長） 特になし

(5)日本医療機能評価機構より、産婦人科診療ガイドライン産科編2011および同婦人科外来編2011を、同機構が運営するMinds に掲載することについての許諾依頼を受領した。

[資料:ガイドライン1]

吉川裕之理事「学会、医会のホームページに公開後であること、印刷不可であること、英文版がある場合はそれも載せることを条件にしている。」

岡井崇副理事長「一般公開となると多くの人々が見ることを前提に考えておく必要がある。」

木村正理事「公表は時代の流れだが、アカデミックなことを知っている人が却って不利にならないような記載方法が重要である。」

吉川裕之理事「ガイドラインそのものが理解されていないケースもあるが、作成の際には医療訴訟にも対応した議論を十分行っている。」

本件について特に異議なく、全会一致で承認された。

(6)産婦人科診療ガイドラインに掲載されたCQ& Answer、図表の転載に関する規程を作成した。

[資料:ガイドライン2]

吉川裕之理事「営利目的の転載に課金することや改変の際は審査することなどを定めてある。」

本件について特に異議なく、全会一致で承認された。

5)コンプライアンス委員会（平松祐司委員長）

(1)利益相反情報の開示手続きに関して「利益相反に関する指針」運用細則の改正案を作成した。

[資料:コンプライアンス1]

岡井崇副理事長「『利益相反の有無』を『利益相反状態の有無』に変えた方がよい。」

吉川裕之理事「利益相反の有無を開示する場合、企業名が含まれていることが重要である。またガイドライン作成委員長と評価委員長は開示請求を行うように理事会などからきちんと伝える必要がある。」

落合和徳副理事長「ガイドライン作成委員長、評価委員長の役割として明示しておくことが望ましい。」

小西郁生理事長「ガイドライン委員会の内規などに織り込むようお願いしたい。」

本件について特に異議なく、全会一致で承認された。

6)医療改革委員会（海野信也委員長）

(1)平成23年度第1回拡大医療改革委員会について

海野信也委員長「新規入会者数の頭打ち、地域偏在の問題点が浮かび上がってきた。これへの解決策を今後検討する必要がある。」

7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会 (竹下俊行委員長)

(1) 地方学会担当市民公開講座について [資料:男女共同1]

(2) 女性の健康週間 2012 について

①1月26日、本会事務局会議室にてプレスセミナーを開催した。 [資料:男女共同2]

②2月10日、産経新聞発行の「metropolitana (メトロポリターナ)」に男女共同参画・女性の健康週間委員会監修による記事が掲載された。 [資料:男女共同3]

③2月21日、日経新聞東京本社版夕刊「丸の内キャリア塾」に小西郁生理事長インタビュー、および杉浦真弓委員監修による女性の健康に関する記事を掲載の予定である。 [資料:男女共同4]

④3月1、2、8日開催「丸の内キャリア塾女性の健康週間特別セミナー」について [資料:男女共同無番]

(3) 男女共同参画・女性の健康週間委員会企画「産婦人科から発信する男女共同参画」—より充実した研修とキャリア継続のために— について

(4) 女性の健康週間に関する企画・広告会社との契約について

岡井崇副理事長「女性の健康週間の収支はどうか。会計担当としての立場からは、この事業を通して企業からの寄付金や広告を受け入れるようにしていただきたい。」

北澤正文主務幹事「この事業の広告費については、本学会には入る仕組みにはなっていない。」

岡井崇副理事長「企画・広告会社から収支報告をきちんと出してもらってほしい。」

小西郁生理事長「本会も公益社団となったので、企画・広告会社との関係について一定の見直しを行ってほしい。」

8) 若手育成委員会 (齋藤 滋委員長欠席につき金内優典主務幹事)

(1) 第2回産婦人科スプリングフォーラムについて

3月3日(土)・4日(日)に2日間にわたり、京都平安ホテルにおいて開催する。プログラム集が出来上がり次第、参加予定者に送付する。

(2) 第6回産婦人科サマースクールについて

①若手医師企画委員について

第5回の若手医師企画委員のなかで第6回もお手伝いいただけるとの意向を示していただいた先生に意思確認を行った(12名)。

また、新規若手医師企画委員の推薦を若手育成委員会委員に依頼した。

②オプションとして開催する【被災地視察】について

岩手医科大学 杉山 徹教授、菊池 昭彦教授のご協力のもと企画を行っていく。

9) 臨床研究審査委員会 (水沼英樹委員長欠席につき多賀谷光主務幹事)

(1) 臨床研究審査委員会規約の改定について [資料:臨床審査1]

本件について特に異議なく、全会一致で承認された。

10) 医療安全推進委員会 (岡井 崇委員長) 特になし

III. その他

以上

資 料

1. 平成 23 年度第 6 回常務理事会議事録(案)
2. 平成 23 年度第 7 回常務理事会業務担当理事報告並びに関連協議事項予定内容
- 総務 1：日本産科婦人科学会規則・内規等の一覧（見直し用）
- 総務 2：平成 24 年度臨時総会次第(案)
- 総務 3：本学会におけるガイドラインの位置づけに関する検討のお願い
- 総務 4：胎児 CT の適応と推奨プロトコールに関する検討 WG の設置のお願い
- 総務 4-1：本会ホームページ「病気を知ろう」及び「妊娠を知ろう」のコーナーの充実について
- 総務 5：「次期国民健康づくり運動」に対する本会からの提言
- 総務 6：歯科口腔保健の推進に関する法律の基本的事項に関する意見の依頼について
- 総務 7：疑義解釈委員会委員の推薦準備依頼について
- 総務 8：「ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針」の周知徹底依頼について
- 総務 8-1：「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」(案)について
- 総務 9：「カバサル錠 0.25mg、1mg」の販売移管について
- 会計 1：会計担当理事会資料一覧
- 編集 1：日本産科婦人科学会 編集に関する事項 新旧対照表
- 渉外 1：FIGO World Congress Rome：Recommended Speakers from Japan
- 渉外 2：2012 年 2 月の FIGO Officers Meeting 報告
- 専門医 1：日本産科婦人科学会 専門医制度規約施行細則 新旧対照表
- 倫理 1：第 4 回遺伝カウンセリング認定講習会開催のご案内
- 倫理 2：出生前診断のWG立ち上げについて
- 教育 1：西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部産婦人科医育成奨学金給付予定者
- 教育 2：用語集・用語解説集改定案
- 広報 1：JSOG-JOBNET 事業報告
- 広報 2：ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について
- 広報 3：JSOG ホームページアクセス状況
- 未来ビジョン 1：役員および代議員選任規程改定案
- 震災対策 1：第 2 回震災対策・復興委員会議事録
- ガイドライン 1：産婦人科診療ガイドラインのMinds掲載について
- ガイドライン 2：産婦人科診療ガイドラインに掲載された CQ & Answer、図表の転載に関する規程
- コンプライアンス 1：「利益相反に関する指針」運用細則の改正案
- 男女共同 1：平成 23 年度地方学会担当市民公開講座一覧
- 男女共同 2：2012 プレスセミナー当日出席者リスト
- 男女共同 3：産経新聞発行「metropolitana（メトロポリターナ）」記事
- 男女共同 4：日経新聞東京本社版夕刊「丸の内キャリア塾」記事
- 男女共同無番：「丸の内キャリア塾女性の健康週間特別セミナー」について
- 臨床審査 1：臨床研究審査委員会規約 新旧対照表